



毎週月曜日更新

カタカタ通信

第241号

2026年8月10日

「旅立ち」



百日紅(サルスベリ)と残った天



天空の里周辺の上空を巡回する晴



麦畑を歩く晴

7月18日放鳥式典。いよいよ晴と天の旅立ちです。朝から泣き出しそうな曇り“空”。すぐ隣の防風林では、百日紅も旅立ちを祝うかのように赤い“花”を咲かせています。大ケージは放鳥のために天井を開放した面と通常の面の2つに分けていましたが、放鳥式典のクライマックスで、その間を仕切っていたカーテンを開きました。開けてもすぐには飛び立たないものだなあと思いました。

その後もいつものようにゆったり過ごす2羽。ちょうどお昼だったので、食後にのんびりと見ていると、突然晴が動き出し、あっという間に飛び立ちました。みんなで慌ててカメラや双眼鏡を持って外へ飛び出し、どちらに飛んでいくのか見守りました。あっちに行った、戻ってきた、こっちへ行った…、いろいろな声が聞こえました。その声のとおり、晴はあちこち大きく巡回して目的地を探しているかのようなでした。その後はいったん荒川を超え、吉見町の方

角へ消えていきましたが、夕方にはコスモス畑の隣の麦畑へ戻ってきました。

次の日の朝も付近の上空へやってきましたが、飛行物体に驚いたのか、麦畑を離れてしまいました。その後は、早くも野外個体と行動を共にしていたようです。

一方、天は3日遅れの便りが届いたのか、21日の夕方やっと飛び立ちました。

数日後、晴がいる場所とは違う場所でコウノトリが3羽いる、との情報が入り、すぐに向かいました。その田んぼの中には10羽ほどのダイサギと2羽のアオサギ、そして一緒に3羽のコウノトリがいました。3羽ともまだ若い個体のようなでした。足環は汚れて色はわかりませんでした。背中をよく見ても発信機は見つからず、天ではないようでした。

田んぼの畔で食事中的のコウノトリを見かけたら、ぜひ情報をください。特に天の情報をお待ちしています。



野外個体とサギ

天空の里 鴻巣市コウノトリ野生復帰センター

飼育担当：最長老